

北見工業大学学報

第 307 号 (2021 年 9 月号)

目 次

学位記授与式	令和 3 年度 9 月期学位記授与式を举行……………	3
入 試	大学院入学試験を実施……………	4
	令和 4(2022)年度編入学試験(第 2 次募集)実施告知……………	5
研 究 助 成	令和 3 年度外部資金の受入状況……………	6
人 事	人事異動……………	7
受 賞	本学大学院生が日本機械学会北海道支部賞(支部優秀講演賞)を受賞……………	8
	本学大学院生が日本機械学会若手優秀講演フェロー賞を受賞……………	9
	地域国際系の内島典子教授らが 2021 年度産学連携学会論文賞を受賞……………	10
	本学大学院生が第 56 回地盤工学研究発表会において 優秀論文発表者賞を受賞……………	11
	本学大学院生が第 52 回日本緑化工学会大会において優秀発表賞を受賞……………	12
	機械電気系のラワンカル・アビジート准教授らが 2021 年度計測自動制御学会論文賞を受賞……………	13
	本学大学院生が雪氷研究大会において学生優秀発表賞を受賞……………	14
諸 報	上常呂小学校でプログラミング授業を実施……………	15
	おもしろ科学実験オンデマンドを開催……………	16
	小中学校教諭を対象とした夏季研修「地震に強い地域づくり」を実施……………	17
	Web オープンキャンパスを公開……………	18
	オープンキャンパスを開催……………	19
	遠軽高校講座を実施……………	20
イノベーション・ジャパン 2021～大学見本市 Online に出展……………	21	

	第70回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会を開催……………	22
	ハラスメント防止研修を実施……………	23
	技術部技術職員研修を実施……………	24
	IWMST2021 を開催……………	25
情 報 公 開	財務諸表等の開示……………	27
日 誌	8月・9月……………	28

= 学位記授与式 =

令和3年度9月期学位記授与式を挙

(総務課)

9月6日(月)、本学第1・2会議室で令和3年度9月期学位記授与式を挙

式では、理事、副学長、事務局長、指導教員が列席するなか、学部卒業生、大学院工学研究科博士後期課程修了生に対し、鈴木聡一郎学長から学位記が授与され、「ポ

ストコロナを迎えるにあたり様々な変革が起こる時代となりました。本学で得た高度な専門的見地から広い視野で多角的に状況を分析し、課題解決に導く力をブラッシュアップして世界を正しい方向に先導できる社会人として活躍してください。」との言葉がありました。



鈴木学長(左)より学位記を授与される修了生



卒業生・修了生に告辞を述べる鈴木学長

= 入試 =

大学院入学試験を実施

(入試課)

8月24日(火)～25日(水)、令和3年度秋季及び令和4年度大学院入学試験(第1回)を実施しました。課程別専攻別の合格者数等は、下表のとおりです。

令和3年度(秋季)博士前期課程

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
工学専攻	若干人	4	3	3

令和3年度(秋季)博士後期課程

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
生産基盤工学専攻	若干人	0	0	0
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻		1	1	1
医療工学専攻		0	0	0
合計		1	1	1

令和4年度博士前期課程(第1回募集)

専攻名	入学定員	募集人員			志願者			受験者			合格者		
		一般入試	特別入試等	計	一般入試	特別入試等	計	一般入試	特別入試等	計	一般入試	特別入試等	計
工学専攻	120	60	若干人	120	89	0	129	89	0	127	89	0	126
		60			40			38			37		

※一般入試の上段は推薦入試、下段は学力試験入試

※特別入試等は外国人留学生特別入試、高等専門学校専攻科生特別入試及びユニバーサルコース入試の合計

令和4年度博士後期課程(第1回募集)

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
生産基盤工学専攻	3	0	0	0
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3	0	0	0
医療工学専攻	2	0	0	0
合計	8	0	0	0

令和4（2022）年度編入学試験（第2次募集）実施告知

令和4年度編入学試験（第2次募集）を実施します。詳細については、本学ホームページをご覧ください。

（該当 URL <https://www.kitami-it.ac.jp/topics/12763/>）

= 研究助成 =

令和3年度外部資金の受入状況

(研究協力課)

	令和3年8月1日から 令和3年9月30日までの合計		前号までの合計		令和3年度累計	
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)
共同研究	9	9,040	89	73,483 (※)	98	82,523
受託研究	6	8,264	12	75,055	18	83,319
奨学寄附金	4	2,460	31	24,659	35	27,119

(※) 変更契約反映のため450千円増

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現 職 名	氏 名	新 職 名 (発令事項)
3. 8. 17	財務課事務職員	山上 雅之	財務課事務職員 (入試課事務職員兼務)
3. 10. 1	工学部機械電気系准教授	佐藤 満弘	工学部機械電気系教授
〃	工学部機械電気系准教授	吉田 裕	工学部機械電気系教授
〃	工学部社会環境系助教	木田 真人	工学部社会環境系准教授
〃	研究協力課係長	原 亜喜子	情報図書課係長
〃	情報図書課長 (係長兼務)	田邊 千雪	情報図書課長
〃	(新規採用)	(たぶち ほのか) 田渕 穂乃香	研究協力課事務職員

= 受賞 =

本学大学院生が日本機械学会北海道支部賞 (支部優秀講演賞) を受賞

(機械電気系)

本学大学院生の吉田晃大さん(発表時、博士前期課程 機械工学専攻1年、指導教員:星野洋平教授)が3月5日(金)に日本機械学会北海道支部賞(支部優秀講演賞)を受賞しました。この賞は、国内でも有数規模を誇る日本機械学会の支部組織である日本機械学会北海道支部において表彰される重要かつ栄誉ある賞のひとつであり、研究内容・講演発表がともに優れた講演発表者に授与されます。

吉田さんは、日本機械学会北海道支部 第58回講演会にて星野教授、楊亮亮助教と企業との共同研究による「南瓜表皮除去装置の皮むき動作のロバスト化に向けた改良設計」で、偏心や凹凸の激しい南瓜の表皮除去時においても装置のピーラー部分が転倒して失敗することなく安定して動作するための装置の改良についての発表を行い、この発表に対しての受賞となりました。



(左から) 受賞した吉田さんと星野教授

本学大学院生が日本機械学会若手優秀講演フェロー賞を受賞

(機械電気系)

本学大学院生の佐々木峻馬さん(発表時、博士前期課程 機械工学専攻 1 年、指導教員：星野洋平教授)が3月5日(金)に日本機械学会若手優秀講演フェロー賞を受賞しました。この賞は、国内有数規模の日本機械学会から授与される賞の一つで、若手研究者や学生等が対象であり、研究内容・講演発表がともに優れた講演発表者に授与される栄誉ある賞です。

佐々木さんは、日本機械学会北海道支部第58回講演会にて星野教授、楊亮亮助教と企業との共同研究による「AI 画像処理を用いた牛分娩兆候の検出法の開発」で、クラウドベースの AI ツールを使用した牛の分娩兆候検出 AI モデルの学習方法と検出システムの構築についての発表を行い、この発表に対しての受賞となりました。



(左から) 受賞した佐々木さんと星野教授

地域国際系の内島典子教授らが2021年度産学連携学会論文賞を受賞

(地域国際系)

6月24日(木)に行われた特定非営利活動法人産学連携学会の定期総会において、地域国際系の内島典子教授らが2021年度産学連携学会論文賞を受賞しました。この賞は、産学連携学会論文集に投稿した論文等が特に優秀であり、もって産学連携活動全般に貢献した個人またはグループを表彰するものです。

内島教授らの受賞論文名は「国立大学法人19大学における共同研究の実施状況の解明に関する実証的研究」です。本論文は、産学官連携に関する重要な指標の一つである共同研究に着目して、2009～2013年度の5年分における国立大学法人19大学の共同研究の契約を詳細に調査・分析したもの

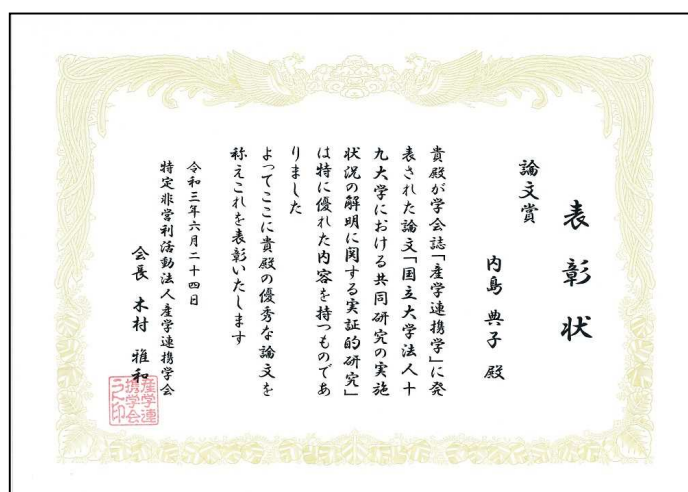
で、大企業との共同研究が多いことや大学所在地県内企業との共同研究が伸び悩んでいること等を明らかにしました。さらに、大学所在地県内企業との共同研究については、共同研究件数と研究費受入額が、概ね大学所在地県の企業数や特許出願件数、製造品出荷額等、付加価値額と正の相関が認められ、影響要因と考えられることなども明らかにしました。

これらの事象は直観的には理解されている事象ですが、本論文では、詳細な調査・分析を行い、エビデンスに基づいて統合的かつ定量的に議論されている点が評価され、特に優れた内容を持つものであるとして、今回の受賞となりました。

受賞論文：

北村寿宏(島根大学)、藤原貴典(岡山大学)、川崎一正(新潟大学、現：三条市立大学)、竹下哲史(長崎大学)、内島典子(北見工業大学)、秋丸國廣(愛媛大学)：国立大学法人19大学における共同研究の実施状況の解明に関する実証的研究、産学連携学第17巻、第1号、pp.54-68(2021年1月発行)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsip/17/1/17_1_54/_article/-char/ja



表彰状

本学大学院生が第56回地盤工学研究発表会において 優秀論文発表者賞を受賞

(地域と歩む防災研究センター)

8月20日(金)、本学大学院生の古矢達也さん(博士前期課程 社会環境工学専攻2年、指導教員:川口貴之教授)、小山真輝さん、松下功志郎さん(ともに博士前期課程 社会環境工学専攻2年、指導教員:川尻峻三准教授)の3人が、第56回地盤工学研究発表会において優秀論文発表者賞を受賞しました。

本発表会は、公益社団法人地盤工学会が開催している全国規模の学術講演会で、今回は7月12日(月)~15日(木)にオンラインで開催されました。「地盤工学会優秀論文発表者賞」は今後の地盤工学分野を担う若手技術者及び若手研究者の活性化、研究意欲の向上を目的として設立された賞で、「地盤工学会の発展に貢献しうる優秀

な論文を適切に口頭発表した」と認められた35歳以下の技術者及び研究者に贈られます。

受賞者及び発表タイトルは以下の通りです。

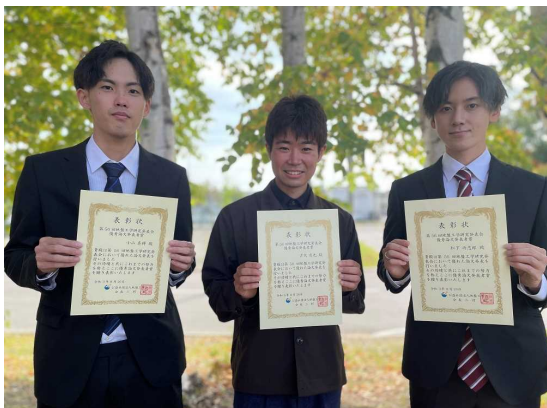
これらの研究は、本学が北見市から無償提供を受けているオホーツク地域創生研究パークをフィールドとして「地域と歩む防災研究センター/SAFER」で取り組んでいる積雪寒冷環境における地盤防災・減災技術に関するものです。今後も、様々な分野の教員が所属するセンターとしてのメリットを活かした研究を進め、地域の防災力向上に資する研究成果を社会に還元していきます。

受賞者:発表タイトル

古矢達也:2層のジオセルからなるのり面保護工の浸透抑制効果に関する検討

小山真輝:河川増水時の橋台背面盛土流出対策工の試験施工と間隙水圧の観測

松下功志郎:材質・種別が異なる帯状補強材の引抜き抵抗力の発揮メカニズムの検討



(左から) 小山さん、古矢さん、松下さん



オホーツク地域創生研究パーク

本学大学院生が第 52 回日本緑化工学会大会において 優秀発表賞を受賞

(地域と歩む防災研究センター)

9月4日(土)～12日(日)にオンラインで開催された第52回日本緑化工学会大会において、本学大学院生の五郎部生成さん(博士前期課程 工学専攻 社会環境工学プログラム1年、主指導教員：中村大准教授)が、優秀発表賞(論文・技術報告部門)を受賞しました。

この賞は若手会員を筆頭とする発表を対象として、論文部門、技術報告部門、研究交流発表部門のそれぞれから優れた発表が表彰されるものです。

五郎部さんは「植生工の雨滴に対する侵

食防止効果の新たな評価手法の検討」について発表。プレゼンテーション動画と掲示板で行われた質疑応答が高く評価され、今回の受賞となりました。

なお、本研究は本学の地域と歩む防災研究センターで取り組んでいる積雪寒冷環境における地盤防災・減災技術の研究・開発に関するものです。また、発表した論文は令和4年に経営統合を行う帯広畜産大学の教員と本学教員とで実施している共同研究の成果をまとめたものです。

受賞者：五郎部生成・中村 大・川尻峻三・川口貴之・中陳実咲希・宗岡寿美

受賞題目：植生工の雨滴に対する侵食防止効果の新たな評価手法の検討



受賞した五郎部さん

機械電気系のラワンカル・アビジット准教授らが 2021年度計測自動制御学会論文賞を受賞

(機械電気系)

9月9日(木)、機械電気系のラワンカル・アビジット准教授らが、2021年度計測自動制御学会論文賞を受賞しました。

計測自動制御学会(以下、SICE)は、計測、制御及びシステムに関する学術及び技術の進歩発達をはかり、文化の向上並びに産業の発展に寄与することを目的としており、論文賞は、SICEが関与する科学技術分野で、学問技術の発展に寄与するところの大きい論文の著者に対し贈呈されるものです。

ラワンカル准教授らの受賞論文名は「Line Segment Extraction and Polyline Mapping for Mobile Robots in Indoor Structured Environments Using Range Sensors」です。論文では、自律移動ロボットにおいて不可欠な環境の地図作成および自己位置推定の円滑な実施のため距離センサーを用いた新たなアルゴリズムを提供しており、この研究成果が高く評価されての受賞となりました。



賞状



トロフィー

本学大学院生が雪氷研究大会において学生優秀発表賞を受賞

(社会環境系)

9月13日(月)～16日(木)に開催された雪氷研究大会(2021・千葉オンライン)において、本学大学院生の藤原玲司さん(博士前期課程 工学専攻 社会環境プログラム 1年、主指導教員:南尚嗣教授)が学生優秀発表賞(ポスター発表部門)を受賞しました。

この賞は、公益社団法人日本雪氷学会と日本雪工学会が主催する本大会において、優秀な発表を行った学生会員に授与されるものです。

藤原さんは木田真人助教、南教授(ともに社会環境系)とともに、これまで未解明だったクラスレートハイドレートを用いた気固接触系のガス包蔵特性について研究し、本大会において「TBACハイドレートのCH₄およびCO₂分離特性の温度圧力依存性」というタイトルで研究成果を発表、このたびの受賞となりました。なお、本研究はJSPS科研費20K12269(研究代表者:木田真人)の助成を受けたものです。



受賞した藤原さん

上常呂小学校でプログラミング授業を実施

(研究協力課)

7月21日(水)、本学と北見市教育委員会との連携事業に基づく取り組みとして、北見市立上常呂小学校の児童を対象としたプログラミング授業を実施しました。

この取り組みは、本学の技術部職員が市内の小学校へ訪問し、児童を対象にプログラミングの授業を行う社会貢献活動です。今回は、小学4年生と5年生合わせて22人の児童に対して授業を行いました。

プログラミングについての考え方を学ぶ授業では、あえてパソコンは使用せず、縦横各8マスの地図上で、ロボットのキャラクターに指示を出しながらゴールへと導く、

すごろくのようなゲームを用意し、児童に体験してもらいました。小学生を相手に分かりやすく進行できるか不安はありましたが、児童達は直ぐにルールを理解し、楽しみながらゲームに参加していました。

また、プログラミングを使用した実演としてトイドローンの飛行を披露。設定したプログラムどおりに旋回や宙返りを行う様子に、児童達は関心を寄せていました。

今後も地域のプログラミング教育の一助となるよう、小学校の要望に合わせて実施を継続していきたいと考えています。



ゲームを説明する技術部職員



ゲームに参加する児童の様子

おもしろ科学実験オンデマンドを開催

(研究協力課)

7月23日(金)～8月18日(水)にかけて、小中学生向けに理科実験やものづくりの動画を配信するイベント「おもしろ科学実験オンデマンド」を開催しました。

おもしろ科学実験は、小中学生の科学やものづくりに対する興味・関心を喚起することを目的に、例年は本学を会場にした体験型のイベントとして開催していますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、昨年度に引き続きオンライン開催のかたちで実施しました。

今年度も教職員や学生に協力を仰ぎ、「オリジナルスピーカーを作ってみよう」「ポンポン蒸気船を作ってみよう」など12のテ

ーマについて動画を製作・配信しました。自宅で一緒に工作ができる動画や、実験の様子を見ながら科学を学べる動画、教職員や学生だけでなく自作のキャラクターを登場させた動画など、それぞれが工夫を凝らした内容となり、夏休み中の子どもたちが楽しく学べる機会を提供しました。

本学を会場とする場合、参加者の多くはオホーツク地域在住の方ですが、オンライン開催とすることで、今年は全国から約1,000人の参加がありました。

今後も本学の特色ある社会貢献イベントの一つとして、本事業を継続していきます。



実験動画の配信ページ



学生によるアクアリウム製作方法の解説



リーフレット



実験内容を説明するキャラクター

小中学校教諭を対象としたの夏季研修 「地震に強い地域づくり」を実施

(研究協力課)

7月27日(火)、本学と北見市教育委員会との連携事業に基づく取り組みとして、小中学校教諭を対象とした夏季研修「地震に強い地域づくり」をオンラインで実施しました。

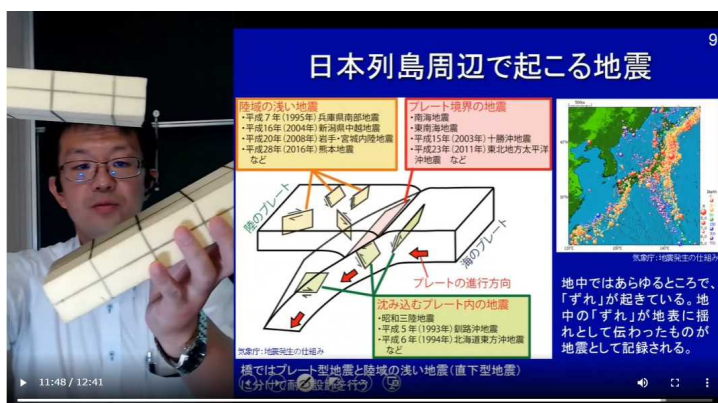
この取り組みは、大学の教育・研究知識を地域の教育現場に還元し、教育の充実及び支援を行うことを目的に、本学教員が講師となって小中学校教諭向けに研修を開催するものです。

今年度は、地域と歩む防災研究センター・突発災害調査研究部門長の宮森保紀准教授(社会環境系)が講師を務め、「地震

に強い地域づくり」と題し、地震災害への対策などについて講義を行いました。当初は本学多目的講義室にて対面で実施する予定でしたが、オンラインに切り替えての実施となりました。

北見市内の小中学校から14人の教諭が参加し、研修後には「難しい内容であったがわかりやすく学ぶことができた」「避難訓練の指導に生かせる」などの感想が寄せられました。

今後も本学の研究成果が地域における教育の一助となるよう努めてまいります。



宮森准教授によるオンライン研修の様子



ポスター

Web オープンキャンパスを公開

(総務課)

7月30日(金)から、「All time KIT ～北見工業大学 Web オープンキャンパス～」と題し、特設ページを公開しました。

今年度は、大学紹介動画のほか、学食シミュレーター等の新規コンテンツを追加し、高校生により本学の魅力を伝えることができるよう、内容を充実させました。

さらにタイアップ企画として、本学の受験を希望または検討している高校生を対象に、8月16日(月)～27日(金)の2週間

限定でオンライン相談会を開催し、各コースのブースを設けて高校生の相談に対応しました。

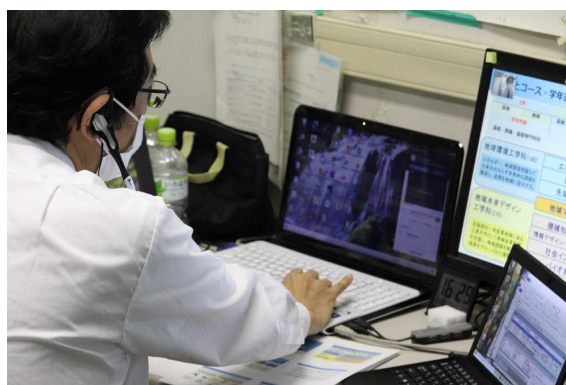
新型コロナウイルス感染症の影響で、対面式のイベントや相談会への参加が難しい方のためだけでなく、遠方にお住まいの高校生・保護者のためにも、今後も継続して本イベントを実施していきたいと考えています。



Web オープンキャンパス TOP



学食シミュレーター



オンライン相談会

オープンキャンパスを開催

(総務課)

7月31日(土)、8月1日(日)、8月21日(土)、8月28日(土)の計4日間、高校生や保護者等を対象に、本学の教育研究内容や学習支援環境を紹介することを目的として、オープンキャンパスを開催しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施時間を短縮・各回100人の参加を上限とし、マスク着用の義務づけ、体温測定、手指消毒等の感染防止対策を十分に講じた上で実施したところ、7月31日、8月1日、8月21日の対面式開催日には190人に参加いただきました。

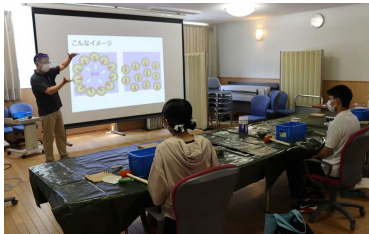
各日、柴坂俊雄副学長による大学概要説明の後、各研究室において体験学習を行いました。

その後、アトリウムと周辺講義室で個別相談等の企画を行いました。中でも在学生が学内を案内する「学内見学ツアー」や女子在学生が研究活動を発表する「リケジョの輪」では、学生の説明に熱心に耳を傾ける多くの参加者の姿が見られました。

昼食は参加者へ生協食堂の特別セットメニューが提供されました。

なお、8月28日は、前日に発出された緊急事態宣言を受けて、対面での開催を中止し、希望者14人へオンラインによる大学概要説明と個別相談を実施しました。

オープンキャンパス終了後のアンケートには、「雰囲気を知れてよかった」「今年は来られて良かった」等の参加者の声が寄せられました。



体験学習



個別相談(学生支援)



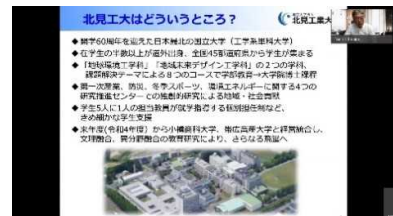
リケジョの輪



学内見学ツアー



個別相談(コース)



オンライン企画(大学概要説明)

遠軽高校講座を実施

(学務課)

8月16日(月)、本学と北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定に基づく「遠軽高校講座」を実施しました。

この協定は、本学と北海道遠軽高等学校が連携することにより高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図り、人材育成に資することを目的に平成25年度に締結したものです。

本協定に基づいて様々な事業を展開していますが、その中でも「遠軽高校講座」は、遠軽高校生に大学で行っている教育・研究を、大学で体験してもらう事業です。協定締結から毎年開催(令和2年度を除く)し、今年で8回目の実施となりました。

今年のテーマは「災害を防ぐのに必要な土を強くする技術『補強土』」で、遠軽高校生8人が参加しました。

参加者は、社会環境系の川口貴之教授から大学の魅力の他、防災とも関連の深い地盤工学分野から、液状化が発生するメカニズムや地盤を強化する補強土について講義を受けました。その後、実際に実験装置により液状化を起こしたり、いろいろな素材の土や材料を混合して参加者それぞれが丈夫な「土」を作成し、その強度を計測しました。中には大学院生よりも丈夫な「土」を作成した生徒もあり、多いに盛り上がりました。

参加した高校生からは、「液状化の現象を深く知ることができた」「実験は楽しさだけでなく、根気がいるなど大変さもわかった」などの感想が寄せられ、充実した体験となったようでした。



川口教授講義の様子



土を作成し強度を計測する実験

イノベーション・ジャパン 2021～大学見本市 Online に出展

(社会連携推進センター)

8月23日(月)～9月17日(金)、「イノベーション・ジャパン 2021～大学見本市 Online」が開催され、本学も出展しました。

本イベントは、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)主催で、全国の大学等機関の技術シーズを一堂に集め、創出された研究成果の社会還元と技術移転を促進し、産学連携を支援するために毎年開催されている、国内最大級の産学マッチングイベントです。長引くコロナ禍の影響により、昨年度に引き続きオンライン開催となり、今年度は400件の技術シーズの出展がありました。

本学からは、マテリアル・リサイクル分野において、応用化学系の大津直史教授が「“空気中で施工できる”金属表面レーザー窒化処理技術」について資料配付やプレゼン動画の配信を行いました。興味を持った参加企業から技術シーズに関する問い合わせがあるなど、産学連携に繋がる有意義な機会となりました。

イノベーション・ジャパンへの出展は、本学のプレゼンス向上に大きく寄与できる場でもあり、今後も出展を継続できるよう取り組んでいきます。

大学等シーズ展示一覧

北見工業大学

“空気中で施工できる”
金属表面レーザー窒化処理技術

北見工業大学 工学部 地球環境工学科先端材料物質工学コース 教授 大津 直史

【技術概要】
金属材料の窒化処理は、表面に窒化物層を形成することで、耐摩耗性や耐食性を向上させることができます。金属製部品の高寿命化のために産業的に広く使われている表面処理ですが、金属材料は、窒素よりも窒素との反応性が高いため、従来は、窒素を完全に排除した純窒素雰囲気で行わないと、窒化物層形成できないと言われていました。本技術は、この常識を打ち破り、レーザー照射を活用して、雰囲気制御していない“空気中”で、金属材料表面に、膜厚数マイクロメートルの窒化物皮膜を形成できる技術です。

想定される
活用例

製造ライン中での施工、組み上げられた製品への後付け施工、あるいは経年劣化した製品の補修や補強としての施工など

お問い合わせ先

北見工業大学 研究協力課産学連携担当
E-mail: kenkyu10@desk.kitami-it.ac.jp TEL: 0157-26-9153 FAX: 0157-26-9155
URL: <http://www.crc.kitami-it.ac.jp/contact/>

マテリアル・リサイクル

大津教授の技術シーズ (パンフレット抜粋)

Innovation Japan 2021
大学見本市 Online

マテリアル・リサイクル

“空気中で施工できる”金属表面レーザー窒化処理技術

北見工業大学 工学部 大津直史

プレゼンテーション動画で説明を行う大津教授

第70回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会を開催

(学務課)

9月2日(木)～3日(金)、本学を当番校として第70回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会を開催しました。

本研究会は、東北・北海道地区の100以上の大学・短期大学が加盟し、大学及び短期大学における高等教育並びに共通教育に関する研究を行うことを目的として設立されたもので、本学での開催は平成2年度の第40回以来、31年ぶりとなりました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止しましたが、今年度はオンラインで開催し、約130人が参加しました。

1日目は研究会委員長である鈴木聡一郎学長の挨拶から始まり、柴野純一理事・副学長が「北見工業大学における基礎教育～

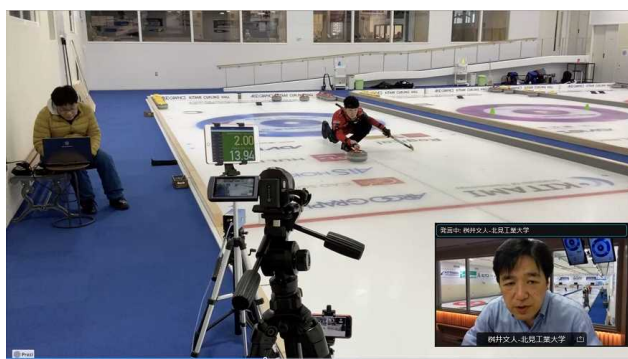
主体性と広い視野を育む実践的教育～」を題目として基調講演を行いました。その後の分科会では3つのテーマに分かれ、本学教員が司会進行や話題提供を行いました。

2日目は、冬季スポーツ科学研究推進センター長の榊井文人教授(情報通信系)が「カーリング支援工学研究にみる人材育成」を題目として事例報告を行いました。分科会報告では、前日の各分科会の様子について、報告がありました。

本研究会では初の試みとなるオンライン開催でしたが、研究会全体を通じて参加者同士の活発な交流が見られました。次年度は岩手大学が当番校となり開催される予定です。

研究会テーマ一覧

全体テーマ	連携と共生 変化する高等教育 ～コロナ禍・ポストコロナを見すえて～
第1分科会	言語的共存—実践的外国語教育の行方
第2分科会	理数系基礎教育の取り組み～数学・物理・化学～
第3分科会	グローバル・サービス社会における地域のケイパビリティを活用する人財の育成教育



榊井センター長による事例報告の様子

ハラスメント防止研修を実施

(総務課)

9月6日(月)～10日(金)、教職員のハラスメントに対する知識を深め、ハラスメント防止に努めることを目的として、ハラスメント防止研修をオンラインで実施しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面式ではなく業務の空き時間で受講できるようオンデマンド方式を採用し

た結果、教職員約190人が受講しました。

身近で起こりうるアカデミックハラスメントやパワーハラスメント等についてオンライン動画で解説した結果、参加アンケートでは受講者の96%が「非常に役に立つ」又は「役に立つ」と回答があり、ハラスメント防止に対する認識を更に深めるものになりました。

技術部技術職員研修を実施

(技術部)

9月9日(木)、本学多目的講義室を会場に技術部技術職員研修を実施しました。

本研修は、技術職員が業務の遂行に必要な知識、技術等を修得し、その能力、資質等の向上並びに技術の継承を図ることにより、本学の教育・研究の発展に寄与することを目的として実施するものです。

昨年度は全体研修を中止としましたが、本年度は新型コロナウイルス感染症対策の観点

からオンラインで実施しました。また、全国の国立大学法人の技術職員が多く参加する「令和3年度機器・分析技術研究会 in 山口宇部」が同日にオンラインで開催されており、これを視聴することで、例年になく多彩な研修内容となりました。技術発表4件、退職予定者による先輩講話、早川博技術部長による講演を本学で実施し、研究会の3件の講演を視聴しました。

視聴講演テーマ 令和3年度機器・分析技術研究会 in 山口宇部

特別企画「研究や展示で役立つ標本作成法」

下関市立自然史博物館豊田ホテルの里ミュージアム 川野敬介学芸員

基調講演「「宇部方式」をSDGs未来都市に活かす」

NPO 法人うべ環境コミュニティー理事長 浮田正夫山口大学名誉教授

労安シンポジウム講演①「機器管理(防火・防災)の取り組みについて」

大阪大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻 大倉重治技術専門員



研修会の様子

IWMST 2021 を開催

(国際交流センター)

9月29日(水)、国際ワークショップ IWMST 2021 (International Workshop on Modern Science and Technology)をオンラインで開催しました。当初は昨年秋に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一年越しでの開催になりました。

冒頭、鈴木聡一郎学長より加盟大学(ハルビン工程大学、武漢科技大学、勤益科技大学)の協力に対する謝意が示された後、本ワークショップを通じて研究者同士の繋がりが深まり、今後世界レベルの研究が進められることを大いに期待しているとの言葉がありました。

次に、実行委員長である川村彰理事より挨拶があり、オンライン開催の経緯説明と、自然豊かな秋の北見に足を運んでいただけなかったことについて隔靴搔痒の思いであることが伝えられました。また、投稿論文数についての言及と、本ワークショップとしては今回初めて査読審査を設けたこともあり、各大学の査読者に対し感謝の気持ちが伝えられました。最後に、本ワークショップが契機となり、今後世界をリードする研究に繋がっていくことへの期待が寄せら

れました。

開会式後の基調講演では、現ハルビン工程大学 College of Aerospace and Civil EngineeringのMao Jize院長にご講演いただきました。Mao院長は、2003年3月に本学博士前期課程土木開発工学専攻を修了、2006年3月に本学博士後期課程物質工学専攻材料設計工学講座を修了したOBでもあります。本学で始めた研究を20年も継続し続け、今なお最先端の研究を行っているMao院長の講演を聞くことができたことは、本学にとって大きな喜びとなりました。

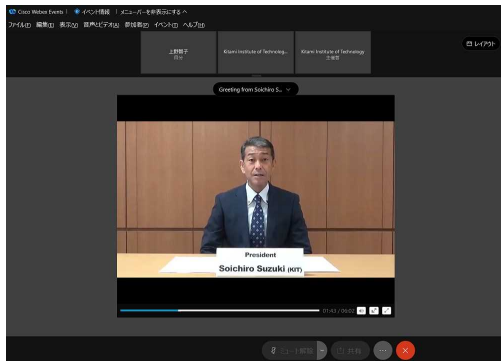
分科会は、本学の6つの系に基づく分野に分けて行われました。当日は、査読を通過した計59編の論文が発表され、その後質疑応答が行われました。質疑応答は対面より控えめでしたが、加盟大学の大学院生や教員の発表に触れることができ、非常に意義のある分科会になりました。

最後となりますが、本ワークショップの開催に際し、多くの関係者のご協力に対し厚く御礼申し上げます。次回は、中国ハルビン工程大学での開催が予定されています。引き続き、本ワークショップ参加を宜しくお願いいたします。

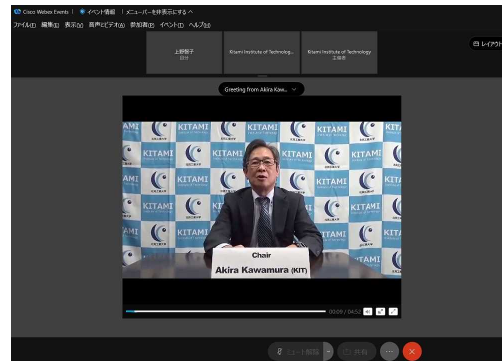
【関連情報】

e-Proceedings (北見工業大学学術機関リポジトリ) :

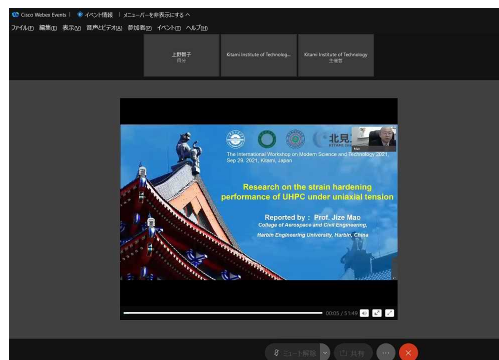
<https://kitami-it.repo.nii.ac.jp/records/2000095>



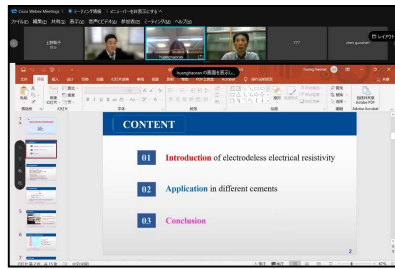
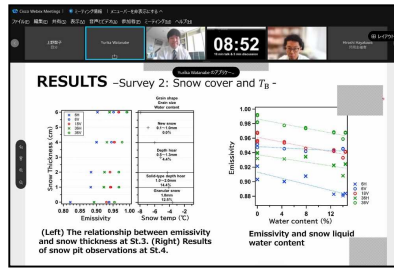
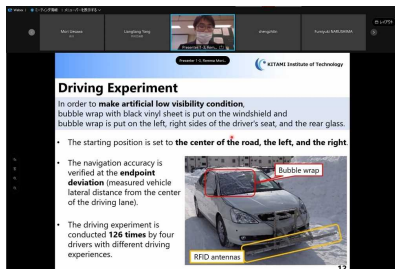
鈴木学長



川村理事



Mao 院長による基調講演



ワークショップの様子

= 情報公開 =

財務諸表等の開示

(財務課)

国立大学法人法に基づき、令和3年8月31日付けで文部科学大臣の承認を受けた令和2(第17期)事業年度の財務諸表(附属明細書を含む)及び関係書類を本学ホームページ(<https://www.kitami-it.ac.jp/about/disclosure/info-about-kitami/>)に掲載しましたので、お知らせします。

= 日誌 =

8 月

- 1日 オープンキャンパス (2回目)
- 3日 総合型選抜等実施委員会
- 5日 発明審査委員会
- 10日 地域連携・国際交流委員会 (書面審議)
- 13日 学生委員会
- 16日 遠軽高校講座
- 21日 オープンキャンパス (3回目)
- 23日 教育研究評議会 (書面審議)
- 24日 令和3年度秋季・令和4年度大学院工学研究科博士前期課程入学試験
- 25日 令和3年度秋季・令和4年度大学院工学研究科博士後期課程入学試験
- 26日 教務委員会
- 28日 オープンキャンパス (4回目・オンライン)
- 31日 入学者選抜委員会、令和4年度編入学試験 (第2次募集) 実施告知

9 月

- 1日 教授会・研究科委員会 (書面審議)、令和3年度北海道地区国立大学学生関係副学長・部課長会議 (オンライン)、令和3年度秋季・令和4年度大学院合格発表
- 2日 第70回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会 (オンライン) (~3日)、令和3年度秋季大学院入学手続き (~10日)
- 6日 学位記授与式
- 9日 発明審査委員会、地域連携・国際交流委員会、教務委員会
- 16日 学長選考会議 (Web会議)
- 24日 合同理事長選考会議、教育研究評議会 (書面審議)
- 30日 経営協議会 (書面審議)